

| 論文審査の結果の要旨および担当者 | |
|---|---|
| 学位申請者 | 江川 可純 |
| 論文担当者 | 主査 西尾 元 |
| | 副査 小山 英則 |
| | 副査 新村 健 |
| 学位論文名 | Augmentation by resveratrol of the inhibitory effect of ethanol on platelet aggregation (エタノールの血小板凝集抑制作用に対するレスベラトロールの増強効果) |
| <p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>赤ワイン消費量の多いフランスでは、虚血性心疾患による死亡率の低いことが知られている。アルコールには血小板凝集抑制作用のあることが知られており、赤ワインに含まれるポリフェノール的一种であるレスベラトロールの抗血栓作用の関与が注目されている。申請者は、レスベラトロールのアルコールの血小板凝集抑制作用に対する影響を検討した。健常成人の血液から作成した洗浄血小板浮遊液および全血を試料とし、トロンビンおよびコラーゲン、アラキドン酸を血小板刺激剤として用い、血小板凝集能と細胞内 Ca²⁺濃度を測定した。同時に、血小板凝集因子であるトロンボキサン B2 生成量も定量した。申請者は、血小板凝集に影響を与えない程度の低濃度のレスベラトロールの投与が、アルコールによる血小板凝集抑制作用を増強することを発見した。この増強効果は、血小板凝集の際に生じる血小板細胞内 Ca²⁺濃度の上昇に影響を与えないこと示した。さらに、血小板の凝集因子であるトロンボキサン B2 の産生が、レスベラトロールとアルコールの同時投与によって、有意に減少することを明らかとした。これらの結果は、レスベラトロールがアルコールの血小板凝集抑制作用に付加的な効果を持つことを示したもので、その作用機序としてトロンボキサン A2 産生抑制の関与が考えられること、さらに、レスベラトロールによる増強効果の作用点が Ca²⁺濃度上昇以降にあることを示唆することを明らかとした。本研究内容は、レスベラトロールとアルコールの同時投与による血小板凝集抑制効果をはじめて明らかとしたもので、その原因となる作用点のいくつかを検討したものであり、学位授与に値すると判断した。</p> | |